

ザリガニは川の中でどうしてるの？

るんびにー保育園（愛知県岡崎市）

[5 歳児]

川や池などに遊びに行った子どもたちが、「ザリガニ捕って来たよ！」「ドジョウ捕って来たよ！」と小さい水槽に入れて保育園に持って来る。3・4歳児の頃から小動物を飼育したり探したりして触れ合う機会が多かった子どもたちは、「飼ってみたい」という強い好奇心が生まれた。そこで、子どもたちの「小動物を育ててみたい」という意欲を大切にして、どのようにしたら飼育することができるか意見交換し合い、育てることにした。

事例1．ザリガニが溺れてる!! [ザリガニが、水槽の中の植木鉢の上に登ろうとしては滑り落ちていく様子を見て]

A児：「ザリガニが溺れてるよ。水が多くて死んじゃうよ！」

B児：「だけどザリガニって川に棲んでるんだよね!？」

A児：「でも上に行きたがってるよ。石とか登る所が無いから空気が吸えないんだよ」「先生、かわいそうじゃん、水減らしてよ」

B児：「ダメだよ！川だって深い水の中だもんで、このままでいいんだよ」「ドジョウの時も『空気と同じくらい水が大切なんだ』ってEくんが言ってたじゃんか」

(ドジョウが水がめから出てしまい、土の上で苦しそうにしていた時があった)

D児：「水が少ないと殻が乾いて死んじゃうかもしれないよ」

C児：「じゃあ、ザリガニがどんな所に棲んでるか見に行けばいいんだよ」

A・B児：「そうだよ!!行って見ればわかるよ」

考 察

飼っているザリガニの水の量が「多過ぎるのではないか？」という疑問が子どもたちの中から出て、川や池に遊びに行ったことがあるY男から「ザリガニは川や池に棲んでいるんだから水が多くても大丈夫だよ」という意見も出てきた。しかし、クラスの中には飼育ケースの中だけでしかザリガニを見たことがない子も多く、実際にどのような所に棲んでいるのかは絵本や図鑑などでの知識しかなかった。そのためにこのような疑問が子どもたちの中から出てきた。「ザリガニがどんな所に棲んでいるか見に行けばいいんだよ」という子どもたちの提案で川遊びに行き、ザリガニやメダカが川の中でどのような生活をしているかを見に行くことにした。

事例2．やっぱりザリガニは水がいっぱいでも良かったんだ! [川に網を持って入り、草陰や岩陰を探す]

川の中に入ってみるとアメンボばかりで魚やザリガニが見当たらない。

そこで、草陰や岩陰を中心的に探してみると・・・

M児：「あっ!今、何か動いた」

S児：「魚じゃない?黒かったよ。岩の下の方に行っちゃった」

みんな：「すごいね。Mくん。どこにいたの?」

M児：「岩の陰や草の所に行くといるよ」

みんな：「じゃあ、岩や草がある所を探しに行こう」

N児：「そーっと行かないと逃げちゃうよ」

D児：「あっ!今ザリガニがいたよ」と網で探してみるが入っていない。

E児：「でもこんな所にザリガニがいるなら、水がいっぱいでも良かったんだね」

F児：「本当だ。ここ水がいっぱいだよね。あと草とかいっぱいあるから隠れやすくていいのかもしれないね」



考 察

なかなか見つけられない子どもたちに岩陰や草陰を探すようにコツを教えると、ザリガニや小魚を見つけることができ、「ザリガニはこんな深い所にいるなら水がいっぱいでも良かったんだ」と疑問を解決することができた。また、「草や岩陰など隠れやすい所がある方がザリガニは嬉しいんだ」「お魚と一緒にんだ」という水の中の小動物の生態を知ることができた。園に帰ってから図鑑を読んでザリガニはエラ呼吸をすることを知り、水は多めに入れた方がいいことを確認した。より一層ザリガニに愛着が生まれ、その喜びと共に「もっと観察したい」という探究心が強く表れ、子どもたちの興味・関心・意欲を深めていった。

実際に川遊びを体験することにより、ザリガニや小魚がどのように生活しているのかを知ることができた。そして自分たちが飼育しているザリガニやメダカに水草を多く入れたり、石や植木鉢など川の中と同じような棲家を作った。自分の目で確かめたり友達同士で伝え合ったりして得た経験は、多くの発見場面があり収穫であった。

みどころ

飼育しているザリガニに思いを寄せて毎日注意深く観ているからこそ、細かい様子に気付いた子どもたち。ザリガニを思いやる気持ちから実際に川に行き、ザリガニの生活の様子を実感することになりました。そして、さらに他の生き物との出会いや川の水について知るという経験へと広がっていきます。こうして身近な生き物との触れ合いによって生まれた疑問を追求することによって自然環境の不思議さ、偉大さなどを幼児なりに体感したことは、自然への慈しみや様々な命との共生など、生き物や自然を大切に作る心が育つ貴重な体験です。